

こぶしだより

ガッツとるよ

Vol. 366

2014・11・4発行

「チャレセンカーニバル in 茂木」という名の在職者交流会を9月に開催!



素敵な古民家をお借りして、自然の中で、ピザづくりからブルーベリー狩りとグルメな秋に舌づつみ♪

【400字で語る福祉②】

福祉現場こそが「ふくし」

◎東岡歩さん
(けやきハイツ 世話人)



日々の実践は、「現場」で生まれている。障害のある方も職員も労働者として共に働く所。これはこぶしの当初からの理念である。仲間と一緒に汗を流し、ときにはぶつかり、時には訳のわからないままやみくもに仕事をしてきたり…

いま振り返れば、「現場」での出来事一つ一つが「福祉」ではないだろうか。仲間と一緒に地域に出て販売をしたり、今ならば、仲間と一緒に役場に行ったり、仲間に代わって書類の申請をしたり。「現場」とは、単に事業所の中だけではない。事業所のある地域も含めて、「福祉現場」なのではないか。役割こそ違うが、私たちの仕事一つ一つが「現場」での仕事なのだと思う。

最近悲しいと思うことがある。「管理者」と「現場」というように、職場の役割を分断した考えが出てきているように感じる。加えて、職員一丸となって「現場」を盛り上げていく勢いがないように感じる。専門分化する一方で、役割や担当もこま切れになり、丸ごとそれぞれのスタッフの役割を知り、「現場」に浸かって仕事をする雰囲気なくなっているようだ。

●特集：

こぶしの会・相談支援センター座談会…2-5

●400字で語る福祉……1, 2, 4

①東岡歩(けやきハイツ世話人) ②小林勇次(ほっとCHA相談員) ③中澤亜紀子(けやき作業所看護師)

●食堂さんぽ

【上三川ふれあいの家ひまわりアトリエ・ド・パンシュシュ】…6-7

●報告 セルブ・みらい、こぶし作業所 …8

●ギャラリーこぶし……………9

●こぶしづかん……………10

●連載【社会モデルを地域文化に14】…11

●事業所一覧 ●はせぶくろう…12



こぶしの会 相談支援 センター 座談会

教えて！ 相談支援の裏オモテ 「相談支援の魅力と現状」

こぶしの会には、宇都宮地区、芳賀圏域、上三川町の三地域に「相談支援センター」があります。施設で日中活動支援を中心としてはたらくわが編集部員の松本&森島が、身近なように遠い未知の世界を取材するべくこの企画を提案しました。しかし何を聞いたらよいのか全く分からないということで、急遽座談会を開いてもらいました。（取材：松本祐一、森島知代、星宮有子、牧岡健二編集部）



範囲、領域が問題なのではなく、
人権を守るためにあるのです

司会（牧岡）●それではさっそくですが、相談支援って何をするとおこなうのか教えてください。

渡辺●正直まだよく分かりません（笑）。どの範囲を相談支援でやらなきゃいけないのか、他の関係機関との住み分けがどうなっているのか、実際は他の人が忙しくて自分がやっていることもあったり、ということもあるの、いまひとつ、何をするとおこなうのかというの、分らないです。表向きには福祉サービスについての情報提供をしたり関係機関につなげて連携を取っていく調整役だと思っただけ、実際はそれだけでは終わらない仕事、しかし今は認識できていないですね。

松本●サービスの調整役という役割もあるんですけど、



教えを乞う編集部・取材チーム

司会●そういった場合にはどのような対応をするのでしょうか？

渡辺●私の場合はしばらく様子をおかがうという形をとっています。

渡邊さおりさん



相談と一口に言っても範囲が広くて、こんなサービスを使いたい、という内容があれば、家族のこういう状況で困っているとか、サービスだけでなく、何でも屋みたいな…、でもそうかと言って全部やるわけではなくて、最初の窓口として相談を受けて、本人の状況によってどうするか考えていきたいと思います。

山崎●仕事の範囲という考えではありませんか？

渡辺●ケースによって相談がどこまでやっていくのかというところは変わってくるので、目の前の相談者の望む暮らしが実現できるように、人権を守る為に動く仕事だと思っています。



みんなで考え、「より良く」を目指す。
一人でする仕事ではありません。

松本●そこに人権が絡んでくるケースを自分は担当しています。妊娠しており、生活も金銭面で大変な中、子どもを産むか産まないか、旦那さんの意見はどうか、などかなり悩みますね。

司会●では逆に、相談支援の魅力というのはどういうところですか？

渡辺●依頼があつて、いい方向に事が進んで、その人が望む生活になって、生き活きと「今、すごく楽しいです」という言葉を聞いた時、やってよかったなと思います。なかなかそうはいかないことも多いので、うまくいった時の喜びは倍増です。

松本●基本的には同じです。相談者に関わっていつて生活がよくなった時、やってよかったな、と。

山崎●相談員って、一人ではできない仕事なので、私達以外の人も協力してくれているんです。相談員は、そういう協力的体制、ネットワークを作っていく役割を担っているんです。私は困難な事例に対してケース会議を行いながらチームをまとめていて、そのチームが相談者の暮らしを良くするために自主的に動く場面が見えた時、相談支援員としてのやりがいを感じます。連携とい



勉強でも、バイトでも、趣味でも、
なんだっていいんです。自分の「今
まで」のすべてが生かされます。

司会●「こんな経験が生かされた」ということはありますか？

松本●本当に人と関わることが多いので、今までやってきた経験って何でも役に立つと思います。勉強だけしていてももったいないし、面談をしていると、会話の中で自分の趣味の部分などが話を掘り下げていくにつけに、なったりするので、もちろん勉強、知識を得ることも大切ですけど、他に趣味でもバイトでも経験できる時に多くの経験をしていると、何かの形で役に立つてくると思います。元々人と関わるといのは苦手です…。でもこの仕事は初めての場所に行ったり電話をかけたあたりからが多くて、そういうのも苦手だったんですけど、色々な経験が少しは役に立っているのかな、と思います。

司会●なるほど、効果を狙った経験だけが生かされるわ

400字で語る福祉 22

◎小林勇次さん（ほっとCHA 相談員）



権利の行使

私は昭和62年10月に交通事故により脊髄損傷となり、約1年間の入院生活ののち、平成3年12月に身体障害者手帳4級を取得しました。退院してから約3年間は手帳の取得（申請）をしませんでした。今の私なら、退院後直ぐに手帳の申請を行ったと思います。当時の私は「自分が障がい者であることを受け入れることができなかった」が一番に挙げられます。言いかえれば、「福祉制度の知識が

なかったため」とも言えます。

そもそも、日本の福祉制度は、自ら福祉サービスを使用するために申請を行わなければなりません。「福祉とは、公的配慮によって社会の成員（団体、組織）が等しく受けることのできる安定した生活環境（大辞泉）」とあるように、誰もが等しく受ける権利を持っている訳ですが、知識がなかったために、障がい者＝あわれみを受ける者＝社会の厄介者のような構図を自分で作っていました。誰かが、福祉制度の利用の支援（丁寧な説明）しなければ、権利の遂行はできないと思います。

■座談会メンバー

●山崎真帆子：こぶしの会相談支援統括部長。「障がい者生活支援センターこぶし」および「上三川障がい児・者生活相談支援センター」相談支援専門員。相談支援7年目のベテラン。頼れる部長。

●松本裕生：「障がい者生活支援センターこぶし」相談支援専門員。経験蓄積中の相談支援2年目。

●渡邊さおり：「芳賀地区障害児者相談支援センター」相談支援専門員。専門員として1年目となる悩めるフレッシュ。

けではないのですね。
現在相談支援センターに学生さんが実習にいらしてはいますが、先輩として何か経験をお話ししていただいてもよろしいですか？

渡辺●学生時代の私は、精神科病院のワーカーになろうと思っていました。でも、実習を繰り返す中で自分の思いや考えが変わりました。こぶしの会に入り、チャレンジセンターで就労支援に携わり、今年から相談支援専門員として働いています。頭で考えた希望に向うことより、色々な経験をして道を決めてきて良かったと思っています。

山崎●私は、元々は子どもの支援がたくて児童分野にいたのですが、子どもの支援をする上で、療育施設は子どもの一部分しか見てなくて、子どもの発達のことや親に関する支援をしようと思うと施設の中ではとても対応しきれず、そこから抜け出せない状況に限界を感じ、その人をもっとトータルで支援できる仕事がしたい、と思いました。また、大人になった姿を想像できなかったら、今何が必要かというのを見えてこないのではないかと今だけを見て、親に「今こういうことが必要ではないか」と言っても、自分自身が「本当かな？」と納得しきれない部分があるんです。大人の支援に関わって、その経験、知識を得た上でもっと自信を持って言えるようになるのではないかと思つて成人期の支援に関わるようになりました。それで、7年いた療育施設を辞めて、この仕事をやっています。どんな社会資源があるのか、他の支援機関がどういう力を持っているのかというのも分かってきたし、視野が広がったと思います。

司会●人を思う気持ちがきっかけになって、その人の思いを実現するために何をどう、その人のために生かしていくか考えていくこと。それが自分の力にもなり、人のためにもなるというところに相談支援の魅力が見えてき



集中できなかったり。
司会●表面的なものより、抱えている量が多いのでは？
山崎●抱えているケースの重みだと思えます。相談者の人数だけでははかれない重さや辛さがありますね。それは、外からでは見えないんですよ。
松本●よくわからない不安や、はつきりしないモヤモヤがありますね。
司会●そのモヤモヤはどこからくるのでしょうか。

松本●ひとりだけで考えていることの不安からですかね。
山崎●この仕事を始めて1、3年目は漠然とした不安がありましたね。そんな時助けてくれたのは圏域の先輩たちでした。自信がないのが当たり前だし、それで悩んで自分を認めてあげること悩んでいる。どこかで割り切ることが大切です。
松本●私も1年目の時はそうだったかもしれ

松本裕生さん



たような気がします。そしてその人がいい方向に変わっていくと嬉しさを感じる。これは他の福祉職にも通じるのではないかと思います。相談支援の仕事って、遠いところの話だと思つていましたけど、決してそうではないというところが分かってきました。

不安に潰されず、イライラに滅入らないために悩みを聴けること、言えること、一緒に悩む仲間を作ること

司会●では、相談員の1日の仕事の流れなど、お聞かせいただけませんか？

渡辺●そうですね。曜日感覚がなくなります。訪問や電話対応で頭が混乱してしまつて、心に余裕がないとイライラしてしまいます。本人のやりたいことの実現が難しく、「こうするべき・こうあるべき」と求めてしまう。どうしても主観が入つてしまひ、うまくいかないといライラしてしまふ。発散する場もないし、心の健康を維持するにはどうしたらいいんでしょうね。
山崎●関係機関の中で、そういうことを言える人を作る

障がい者の高齢化、計画相談の本格化。緊急性をどう共有し、有用な資源となるかがカギですね。

司会●最近の相談の傾向はどうですか？
松本●特段傾向というものはありませんが、今抱えているケースで言うと本人、親ともに高齢の方のケースが増えていることですかね。
渡辺●たしかに80歳をすぎても元気な人もいますよね。
司会●施設利用者やグループホーム入居者の高齢化も良く聞きます。質問を少し変えて、計画相談が本格的になったことで何かありますか？

山崎真帆子さん



山崎●計画相談が始まったことでの効果として、今まで相談につながらなかつた人たちがつながるようになったのはいい点だと思います。例えば、短期入所の希望はあるのにサービスが使えないとか。まとめて自立支援協議会にかけるのにもまだまだですが。
司会●資源づくり等々大事な役割ですよ。相談支援という視点から、事業所の会議なんかに出てもらつても良いのかも知れませんね。取材陣も何か質問ありますか？
編集部松本●見逃されてしまうようなケースはどう対応しますか？
山崎●相談が来ると答えを出したくなってしまいますが、相談支援では、適切な専門家を集めたチームを作ることが大切です。アセスメントをしてチーム作りをする。このケースにはこの専門家といったように、困難なケースがきたらまず、誰に相談したらいいか考えますね。緊急性をどう共有できるか、初回面談の難しさや大切を感じます。
司会●本日はお時間割いていただきありがとうございます。

■「取材を終えて」■

相談支援。普段はあまり関わることのない、別世界のようなイメージを持っていましたが、言葉ではうまく言い表せませんが、業務内容やアプローチの仕方は違うにしても、福祉職としての根元のところは変わらないな、と思いました。
自分の守備範囲から少しだけ手を伸ばしてこそ「連携」になる。仕事に限らず何事も守備範囲をきっちり決めていくタイプの自分にとっては新鮮な考えに思えました。また、今回は実習中の学生さんにも場に入っていたいただきました。まさか実習に来て広報誌の取材に遭遇するとは想像もしていなかったと思いますが、貴重な経験になったのではないのでしょうか。
相談に全く関わっていない取材者で、答えに困る質問もあったかと思いますが、快く回答してくださった皆様に感謝いたします。(編集部松本)

400字で語る福祉22

◎中澤亜紀子さん(けやき作業所 看護師)

したいことができるような社会



同じ仕事を続けてかなり月日は経ちますが、病院、企業、在宅…といういろいろなところで障がいのある人、その家族と接してきました。どの分野においても共通なのは、生きていくためには社会とのつながりが必要不可欠であるということです。限られた空間から一歩外に出たいけど出られない、誰かと話し、美味しいものを食べ、遊んだり、仕事したいけどできない、現実に仕事はしたけど難しいなどしたくてもしたい

ことができない現状があります。私が出会った人たちやこれから成長していく子どもたちや親が障がいがあるからしたいことを必然的に制限してしまうのではなく、大変だけれども自分と同じようにしたいことができるような社会、福祉になればいいなと思います。いつも笑顔でみんながいられるようにまだまだ知らないこと、学ぶことあると思いますがそんなことをいつかは…考えながら毎日を過ごしています。

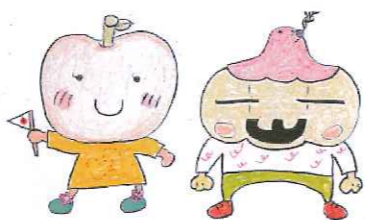
みなさんこんにちは。食道さんぽも第3回を迎えることができました。ありがとうございます。今回は、特集取材ばかりをしていて食のリポートはまったくの新人の星宮有子取材してまいりました。

“もんみや”に載りました!!

今回お邪魔したのは、「アトリエ・ド・パン シュシュ（上三川ふれあいの家ひまわり）」。平成24年5月のオープンから2年を数え、上三川ではすっかりおなじみとなった町のパン屋さんです。なんと、あの栃木県地域情報誌 もんみや 9月号（8/25 発売）にも記事が掲載されているというから驚きです。

食道さんぽ

上三川ふれあいの家 ひまわり アトリエ・ド・パン シュシュ



人気のツートップ。コーヒーが良く合います。サービスのコーヒーと一緒にどうぞ。



【職員の相澤さんにインタビュー】

Q：おススメのパンを教えてください。

A：おススメはやはり「おじさんパン」です。あんこ（アン）とくるみ（クル）でアングル（おじさん）パンです。あと、クリームパンです。中にずっしり重たいほどクリームが入っています。持ってみるとその重さを実感すると思いますよ。

Q：どんなお客様が多いですか？

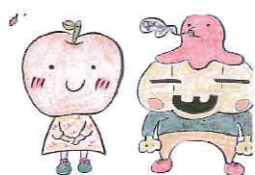
A：お子様連れが多いです。夕方になると、お子様たちだけでパンを買いにいらっしゃる時もあります。

Q：パンづくりで心がけていることはありますか？

A：お子様も召し上がるので、「安全でおいしく」がモットーです。他のパン屋さんみたいに派手なものつくれませんが、安心して食べられて、食べておいしいものしか出さないというこだわりがあります。味に自信ありです。

Q：これからの目標を教えてください。

A：利用者の工賃UP！そのために売り上げUPをめざします。販売先を広げ、もっとたくさんのお客様に来ていただけるように宣伝もしていきます。お店の場所がわかりやすいこと、広い駐車場があることはシュシュの強みだと思います。



美味しいパンで みんなを笑顔にします！ 工賃アップで僕らも元気になります！

多い時には1日1,000個以上のパンを作るといいます。着実にお客様とパン作りの力を伸ばしているようでした。

お昼前に取材に伺いましたが、次から次へと焼き立てのパンが窯から出てきて、工房内に香ばしい香りが

漂っていました。焼き立てのパンはすぐお店に並びます。うれしいですね。

生地のおよそ3倍近くのクリームが入ったずっしり重い人気のクリームパンを買わねば、と思っていたところ、取材をしている間に売り切れてしまいました（泣）。やはり人気商品の競争率は高い！

開店から1時間後の11時過ぎくらいが商品が充実している時間帯のようです。損をさせない安心安全の美味しいパンをぜひご賞味ください。（星宮）



■〒329-0611
河内郡上三川町上三川 2959-1
上三川ふれあいの家ひまわり別館
■TEL:0285-56-7731
■FAX:0285-56-7732
■営業時間：10:00～18:00 火曜日～金曜日
10:00～17:00 土曜日（臨時休業あり）
ご予約も承ります。お気軽にお立ち寄りください♪

☆お得なポイントカードがあります。300円ごとに1ポイント（スタンプ）で、20ポイントたまると次回300円のお買い物券として使えます。有効期限はありません。

ワタシの名は「ワン団長」

GALLERY
KoBuShi

チャレセン・キャラクターできたぞー!!

き放たれたのです。ワン団長を創りだしたのは、高岡美恵さん。とある企業で清掃業務に従事しています。創作のキツカケは和田センター長からご指名され、チャレセンのシンボルを創るべく、まったく



ワタシの名は「ワン団長」。今年の4月から人知れず県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」(通称：チャレセン)のマスクットキャラクター(?)に就任しました(ワン)。構想3年(くらい)、ゆるキモキャラとのチャレセン内の選抜総選挙を勝ち抜き世に解

の白紙の状態からのスタートでした。チャレセンの「スローガンである“あなたの「働きたい」を応援します”から、応援するなら応援団!はじめはネコをモチーフにすることも考えたようですが、パートナー的な存在ならイヌでしようとして、ワン団長が誕生したのです。これからもみなさんよろしくですワン。

追伸 チャレセン近況

近年、栃木県内でも就労継続支援A型事業所が増えてきていますが、益子町、市貝町にもA型事業所があります。A型事業所とは福祉サービスのひとつではありますが、障がい者と雇用契約(最低賃金718円/2013/9/1現在)を結びことのできる事業所です。詳しいことを知りたい方はチャレンジセンターまでお問い合わせください。連絡はチャレンジセンターまで。(菊地)

セルプ・ねりんピック みらい 栃木ジャンパー、 シール貼り作業ゲットだぜ!



今年10月開催の「ねりんピック 栃木」で使用するジャンパーにコットベリーのロゴ入りシールを貼る作業をみんなで行っています。シールを真っ直ぐに貼るため紙枠を作りシールを貼っています。紙枠はA子さん作でシールを貼る部分が切り抜きになっているので分かりやすい。2〜3回作業を繰り返すうちにみんなも慣れてきて作業を楽しむ余裕が出てきました。お菓子づくりにも力が入りますね。さあ、納期厳守で行きましょう。(渡邊)

報告

夏の暑さを吹き飛ばす スイカ割り

今年の夏も本当に暑い!そんな折、ご家族よりスイカのご提供の話が上がりました。そこで夏の風物詩のスイカ割りで活気を出し、水分も同時に取ってしまおうという企画になりました。実施に当たりスイカをご提供いただくご家族と打ち合わせをすると、なんと20玉以上はありそうです。さすがにこぶし作業所の仲間と職員だけでは食べきれずご家族を交えてスイカ割りをおこなうことになりました。当日は、仲間・家族・職員のチームに分かれより多くスイカをたたいたチームが優勝というルールのもと、「まえ、もっと前!」「行きすぎ!」「はい、そこでたいて!」と当たっても当たらなくても目隠しをとったあとはみんな笑顔です。今年の夏もみんなで元気にのりこえられるかな。



アスファルト設置工事が完了

こぶし作業所の駐車場から玄関の間を彩る芝生エリアですが、見た目は良くても芝生をよけていったん道路に出なければならず、少し危ないことが心配されていました。そこで思い切ってここをアスファルトにし、利便性を高めようということが企画されました。この企画は、ご家族からの提案であり、なんと費用も家族会の援助で実施されました。今では綺麗にアスファルトが設置され安全に移動ができるようになってい

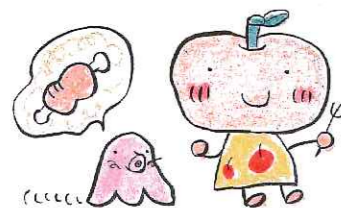


こぶし 作業所

梅雨が明け夏の暑さがやってこようとするころ、6月28日(土)にお肉や旬の野菜を囲んでバーベキューを行いました。今回は理事長にもご参加いただき(お肉のご寄附ありがとうございました!),仲間・家族・職員が楽しい時間を過ごすことができました。ご家族からは自家製のタレや野菜のご寄付もいただき、おいしい食材を前に食べる方も準備する方も大忙しのひとときでした。こんな美味しい時間なら毎月実施したくなっちゃいます。

おいしい 楽しい バーベキュー 交流会





全受刑者のうち4分の1が知的障害者。
福祉につながらず、人生の大半を
困窮・生活困難の中で暮らしてきた人。
… 私たちの地道な歩みだしが、
障がい者、ひいては貧困社会を変えていく。



社会モデルを地域文化に (連載第15回)

高橋温美 (こぶしの会常務理事)

自閉症、人口の6%。
身近な話題なのだ。

平成17年4月1日施行された発達障害者支援法の影響か、親の会の啓もう活動の努力が実りつつあるのか、少しずつ自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害などの発達障害についての関心が広がっている気がする。個人的な交友関係の中の話題に上がることも少なくない。彼らの話題は、まず仕事の中で同僚やお客さんがなんとなく感じる違和感からはじまる。「何度いってもわかってくれない」「指示が通らない」「気持ちが通じているのだろうか」「場の雰囲気がかめない」など仕事をつうじた不満やクレームが続き、なんとなく(他の職員と)違うという思いを強めていくのである。

何もできなかったら…彼らを待ち受け
る未来への影響

そのやり取りの中で感じるのは、障がいがあるゆえに生きづらさが倍増している発達障害と想像される人たちの暮らしと、その改善を阻む日本という社会の過酷さである。彼らをもし、職場で支えきれなかったらどのような人生を歩むのだろうか。障が

警鐘から制度化、地道な実践の積み重ねが悲しい現実を変えていく

いを内面から追体験する姿勢で彼らを理解しようとしていくと、なかなか未来を見通せないのである。わたしたちは、なんの不思議も感じないで日常生活を安心・安全に過ごしているが、それは視覚も聴覚も、その他の知覚のすべてが誕生から長い時間をかけて、人とかかわりを通じて身に付けてきたのであるが、例えば、「身を引け裂かれるような」感覚、知覚の偏りがあるために「伝えるべき言葉を持たない」という障がいをもつ人たちが、なんの配慮や理解もなく成人期までに生き延びてきたとしたら、どのような人間形成をしていくのだろうか。そして、家族や教育、職場という社会から孤立し、生活の貧困化がすすんでいったらどのような人生が待っているのだろうか。

飛躍する感はあるが、ノンフィクション作品『累犯障害者』(山本謙司著 2006年)はそんな現状に警鐘を鳴らしたものである。2009年(平成21年)から設置が始まった現在の地域生活定着支援センター(高齢または障害を有するため、福祉的な支援を必要とする矯正施設退所者について、退所後直ちに福祉サービス等につなげるために設置されている支援機関)

は、そうした警鐘を反映し、現状の改善策として制度化されたもので、キーワードは「居場所・しごと・親身に相談できる人の存在・専門機関の連携」であるという。暗雲たる未来の風景はそのいずれもの深刻な現状が見通せるからである。

『累犯障害者』によると、それ以外にも各種の身体障害および精神障害を持つ受刑者が多数存在し、彼らは劣悪な生育歴の中でほとんど福祉と結びつくことがなく、おにぎり一個の万引き(窃盗罪)や無銭飲食・無賃乗車(詐欺罪)のような微罪で、繰り返し刑務所に入ることによって生き延びている。そして、刑務所が最後のセーフティネットとなっているのだ。山本氏は、「彼らが加害者となつたら当然罰せられるべきだが、その前に彼らは人生の大半を不遇なまま過ごして来た被害者でもある事を忘れておくべきではない」と日本の現状を告発している。

わたしたち福祉の現場も人間性を見失いがちな貧困日本という社会の一部ではあるが、共生の地域社会をつくりだす拠点でもあるのだし、私たちの地道な歩みだしが、例え連携というたとえどしい一歩でも障がい者、ひいては貧困社会を変えていくと信じているのだ。



こころのふしぎ
なぜ? どうして?
●著者/村山哲哉
●高橋書店

読むほどに心が豊かに、強くなる一冊です!

本屋でふっと目に入り手に取った、この本。子供の質問の答えに詰まってしまった時に、やさしく、わかりやすく「こころ」の不安をどうして?と質問され答えにつまってしまった時、簡単にわかりやすく説明できる本だそうです。

こぶしの会に入って一年を過ぎて、仕事も慣れて毎日楽しく過ごしているそうです。好きなものは「花」と「お菓子」。

お子さんが、そば茶屋のお惣菜を気に入っているようで(ありがとうございます)、本部の用事でそば茶屋に来るといつもお惣菜を買っていってくれます。

そんなお子さん思いの神山さんにご紹介していただいた本は、「こころ」という身近で、でも、おとなになってしまうと忘れてしまいそうな、子供の頃の気持ち「こころ」を子供達にも読んでもらって心の優しい人に育ってもらえたらいいなあという本でした。



神山 知子
(かみやまともこ)さん
法人事務センター 書記

ネット発信のメッセージブック
あなたならどうしますか?

もしも、自分が明日この世からいなくなるとしたら…。もし、愛する人がどこかに消えてしまったら…。これが最後のチャンスだったら…。本書は「もしもわかっていたら…」というタイトルで書かれた匿名の詩が、インターネット上で広がっていたものを編集したメッセージブックです。

普段の生活の中で気づかずにいる、生の貴重さ、大切さを語っている所が心に響く、命は待つてはくれない、1日の大切さを再確認させてくれた本。



もしも世界が
明日終わるとしたら
●著者 ランス・ワベルズ
●PHP 研究所



鴨志田 勇太
(かもしだ ゆうた)さん
けやきハイツ 世話人

世話人として、宇都宮と真岡のGHを担当されている鴨志田さん。こぶしの会に入ってから3年が経ちましたが、お若いこともあり、初々しい感じがします。

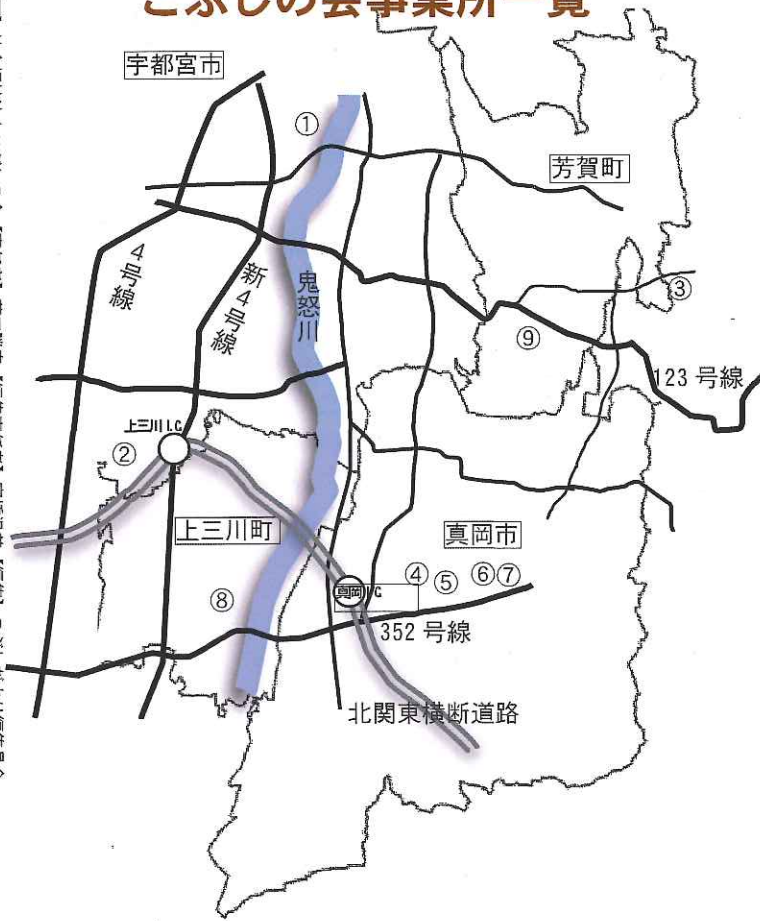
ですが、仕事はベテランの域に。入浴介助や食事介助などを日々こなして、大変さはあっても楽しいと話してくれました。中でも入所者の方のおしゃべりは、ストレス発散になるとの事。担当しているGHは年齢的にも近い人が多く、話が合うとおっしゃっていました。

趣味は音楽。ずっとバンド活動をしているそうです。ベースを担当し、毎月3回ライブを行っているようで、CDも作りライブ会場で販売しているとの事。

「RANCID」というパンクバンドのマット・フリーマンが尊敬するベーシスト(調べてみましたが超絶技巧の持ち主の様です)。

ベースは地味だが、ドラムと共にリズムやグループを作り出すパート。ベースがダメだと曲すべてがダメになってしまうそうです。「弦の鳴らす低音が好き」という鴨志田さんの目標はメジャーデビューだそうです。

こぶしの会事業所一覧



- ① 宇都宮市柳田町 1401
 こぶしの会法人本部
 028-613-3707 (F) 028-666-6128
 028-666-0418 (居住生活支援事業部)
 第2 けやき作業所
 028-680-5937 (F) 028-680-5938
- ② 宇都宮市茂原町 837-1
 こぶし作業所
 028-653-1020 (F) 028-688-1121
 障がい者生活支援センターこぶし
 028-613-5703
- ③ 芳賀郡芳賀町祖母井 2244
 けやき作業所
 028-687-1040 (F) 028-677-5789
 地域活動支援センター「ほっとCHA」
 090-7820-9165
- ④ 真岡市亀山 1043-23
 セルブ・みらい
 0285-81-1155 (F) 0285-81-1177
- ⑤ 真岡市荒町 3-9-5
 県東ライフサポートセンター真岡
 0285-83-2567 (F) 0285-85-8055
 お菓子工房 ピケ
 0285-81-7091 (F) 0285-81-7092
- ⑥ 真岡市荒町 111-1
 県東圏域障害者就業・生活支援センター
 「チャレンジセンター」
 0285-85-8451 (F) 0285-85-8452
- ⑦ 真岡市荒町 110-1 市総合福祉保健センター内
 芳賀地区障害児者相談支援センター
 0285-80-7765 (F) 0285-80-7765
- ⑧ 河内郡上三川町大字上三川 5082-15
 上三川ふれあいの家ひまわり
 0285-38-6821 (F) 0285-38-6841
 上三川町障がい児・者生活相談支援センター
 0285-38-6854
 アトリエ・ド・パン シュシュ
 0285-56-7731 (F) 0285-56-7732
- ⑨ 芳賀郡芳賀町西水沼 438-2
 おらがそば茶屋
 028-680-5091 (F) 028-680-5092

秋の七草をご存知ですか？

元々の「七草」は秋の七草を指し、小正月1月15日のものは「七種」と書くそうです。この七種も「ななくさ」と読みます。

春の七種は、7種の野菜を刻んで入れたかゆ「七草がゆ」を食べる、【食】を楽しむもの。秋の七草は、7種の野草、花を【見る】ことを楽しむものだそうです。

春の七種と違い、秋の七草に直接何かする行事は特になく、花野を散策して短歌や俳句を詠むことが古来より行われていたようです。

秋の七草 女郎花(おみなえし)・尾花(おばな)・桔梗(ききょう)・撫子(なでしこ)・藤袴(ふじばかま)・葛(くず)・萩(はぎ)



【編集後記】

♥夏野菜も一段落、これからは秋野菜のシーズンですね。みらいの畑でも次は何をつくろうか思案中です。最近では珍しい野菜が出回っていますが、ツタンカーメン王の墳墓から発見されたツタンカーメンエンドウなんていうのもあるんですね。(渡邊)

●チャリティーウォーク参加します宣言！ とりあえず少しでも体重を落とさねばと思い散歩を始め、大好きなビールを糖質ゼロ(おいしくない)に変えてみました。完歩できるようにがんばります(^_^) / (皇宮)

★今回はこぶしづかんを担当しましたが、皆さんとても楽しい方々で、取材も楽しくできました。記事も楽しく書いていればよいのですが…。(北川)

◆8月に新橋演舞場で歌劇を観てきました。前から6列目で花道の真横の席に座り、とにかく感動の公演でした。歌に踊り、只々すごい!! しばらく余韻に浸る日が続きました。近々また公演を観に行く予定があり、今から楽しみです。(長谷川)

◆元々短気な自分だが、何をされても言われても3年間ではできる限り我慢しようと決めていた。4年目の今年、少しずつ納得できないことや怒りを意図的に表すようにした。でもその結果、悪い方

に見方を変えられてしまったようで…。自分はどうかあるべきなのか、自問自答を繰り返す今日この頃。(松本)

◆作業室の窓を開けると金木犀の香りが…(o) J日々癒されるこの環境、ブライスレス。短い夏が終わって秋到来ですね。好きな季節ですが、最近鼻や目がかゆい…花粉かな(+o+) 近々アレルギー検査してこよと。(森島)

■腹八分ダイエット中のはずが、食欲の秋で食欲増進! いかんいかんと思いつつも歯止めがかかりません。冬に待っている健康診断がおそろしい。(菊地)